

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は創立105年の歴史の中で、地域に親しまれ地域で活躍する人材を数多く輩出してきた。
生徒一人ひとりと丁寧に向き合い、確かな学びをサポートして、社会に貢献する生徒を育成する学校をめざす。

- 多様な進路を志す生徒の夢をかなえるため、確かな学力の育成を通して、飽くなき向上心と柔軟な自己教育力を持った生徒を育てる。
- 生徒指導に力点を置き、基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上に努め、将来の社会人として自立できるよう生徒を育成する。
- 生徒が互いを認め合い、多様な人々と協働して物事を成し遂げるなど、持てる力を最大限に発揮できる安全で安心な教育環境を構築する。
- 生徒一人ひとりが自信と希望を持って学校生活を送るよう、学校行事や部活動をはじめ、「成功体験」を感じることができるよう教育活動を展開する。
- 地域に支えられてきた本校のたたずまいを大切に、学校情報の発信に努め、家庭や地域住民、中学校や大学との連携を深め、地域に本校の応援団となっていたけよう、開かれた学校づくり、社会に開かれた教育課程を進める。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 「わかる授業・できる授業」をめざした学びの充実の取り組み

- ア 「主体的・対話的で深い学び」や観点別評価を実践するために、授業改善に向けた教員研修、研究授業、情報共有の充実に努める。
イ 1人1台端末やタブレット、プロジェクタ等のICT機器等を活用した授業充実を進めると共に、オンライン授業の実践継続にも努める。
ウ 指導と評価の一体化を意識して、教科ごとの学力の到達目標と達成へのロードマップを策定し、1年から目標をもって授業に取り組む姿勢を育成する。
※授業アンケート中の授業に対する評価に占める肯定的回答の割合を、令和6年度に88%をめざす。(R1:83% R2:84% R3:85%)
※学校教育自己診断で、「授業はわかりやすい」と回答する生徒の割合を、令和6年度に83%をめざす。(R1:75% R2:76% R3:80%)

(2) 積極的な進路選択のための確かな学力の育成

- ア 「総合的な探究の時間」を教育活動の柱として充実させると共に、教科横断的な取り組みの実践など、生徒の進路希望に応えるよう教育実践の充実を図る。
イ 教育産業による基礎学力検査や英語検定などの各種検定試験の校内実施や、多様な技能試験の紹介などを積極的に行い、学習の具体的な目標設定を誘う。
※外部検定試験での受検者数と合格率を、令和6年度にのべ1000名、平均40%をめざす。
(R1:漢検167名26%, N検43名70%, のべ210名35% R2:漢検527名17% R3:漢検232名22%)

2 生徒の進路実現の支援

(1) 進路指導体制の確立と進路実績の向上

- ア 生徒の多様な進路希望に対応できるよう、3年間を見通した進路計画のもと、キャリア教育の充実や進学講習・資格取得も含めた進路指導体制を確立し実践する。
イ 進路希望実現率の向上を図る。 国公立や難関・中堅8私大へ、令和6年度に24名の現役合格をめざす。
10年先を見据えた人生プランを想起させ、キャリア形成の一步として、高校卒業後の個人個人の進路希望実現100%をめざす。
※学校教育自己診断で、「将来の進路や生き方について考える機会がある」と回答する生徒の割合を、令和6年度に90%をめざす。(R1:77% R2:84% R3:84%)
※学校教育自己診断で、「自分なりの目標を持って授業に臨んでいる」と回答する生徒の割合を、令和6年度に80%をめざす。(R1:61% R2:66% R3:67%)

3 生徒の活動の活性化及び基本的な生活習慣・規律・規範の確立と働き方改革

(1) 教科指導や「総合的な探究の時間」の指導に加えて、特別活動や生徒会活動を通じた成功体験による自己肯定感の育成

- ア 教科指導やクラス活動等で多様な他者と協働する機会の積極的な創出や、興味関心を同じくする集団での目標達成に向けた活動の充実など、生徒の活動の幅を広げる。
※生徒の部活動加入率を、令和6年度に65%への復帰をめざす。(R1:56% R2:56% R3:59%)
※学校教育自己診断で、生徒の学校行事満足度を、令和6年度に85%をめざす。(R1:73% R2:76% R3:84%)

(2) 生徒の基本的な生活習慣の確立、規律・規範意識の醸成、課題を抱えた生徒への支援体制の強化

- ア 生徒にマナーとルールに関する意識を徹底し、基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
イ 不登校生徒や様々な困難を抱える生徒に対して、保護者や中学校、関係機関等と緊密な連携を図ると共に、SCやSSW等と連携して教育相談・支援体制を充実させる。
ウ お互いを認め合い、尊重し、支え合う人間関係づくりを通して、安全で安心な教育環境を構築する。
※学校教育自己診断で、「本校の指導は適切で納得できる」と回答する生徒の割合を、令和6年度に65%をめざす。(R1:51% R2:55% R3:57%)
※学校教育自己診断で、「担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる」と回答する生徒の割合を、令和6年度に70%をめざす。(R1:57% R2:58% R3:62%)

4 地域連携の推進

(1) ホームページ等を通じた教育活動についての積極的な発信、地域社会の一員としての地域の様々な取組みへの参加・貢献

- ア ホームページや学校説明会・中学校訪問を通して渋谷高校の教育内容の広報に努め、「行ける学校」から「行きたい」学校づくりをめざす。
イ メールマガジンの充実に努め、教育活動について保護者との連携を強化する。
ウ 近隣の小・中学校や関係機関・団体との連携をさらに深めつつ、教科指導やボランティア活動、生徒会、部活動等での地域行事への参加を進める。
※学校教育自己診断で、「教育活動を通して地域の人々と関わる機会がある」と回答する生徒の割合を、令和6年度に65%をめざす。(R1:46% R2:48% R3:50%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・29項目中11項目で、肯定的な割合が増加した。特に、「自宅学習時間1時間以上」(5.3%増)、「自分の興味関心に適した選択科目が多い」(5.6%増)、「授業が分かりやすい」(2.7%増)、「目標をもって授業に臨む」(1.9%増)と、進路実現を意識しての学習に関する意欲が高まっている事は好ましい結果といえる。 ・一方で、「生徒会活動は自主的で活発だ」(12.9%減)、「部活動は楽しい」(5.3%減)と、コロナ禍の影響も考えられるが、特別活動への参画に課題が残る。また、「人権の大切さを学ぶ機会が多い」(6.8%減)、「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会が多い」(6%減)と、人間関係を円滑に保つ基礎的な学びへのモチベーションの減少が気になることである。 <p>【保護者結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・27項目中7項目で、肯定的な割合が増加した。特に「授業で分からないことは質問している」(6.4%増)、「予習・復習している」(0.8%増)と、生徒結果での学習意欲の高まりリンクした結果となっており、好ましい傾向といえる。 ・一方で、「生徒会活動は自主的で活発だ」(4.2%減)、「部活動は充実している」(3.1%減)、「人権の大切さを学んでいる」(3.2%減)、「命の大切さや社会のルールを学んでいる」(0.8%減)と、こちらも生徒意見の傾向と同じになっており、課題としての認識が家庭内でも共有されている。また、「行事に参加したことがある」(3.6%減)、「学校での生徒の様子を見たことがある」(2.6%減)、「担任との意思疎通が十分できている」(4.2%減)と、コロナ禍であったことで、学校と保護者の間に距離感が大きくなったことは課題である。 	<p>第1回学校運営協議会 令和4年7月7日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人年齢が18歳となり、主権者教育や金融教育はどのように扱っているのか。 ・デジタル教科書や教科書以外の参考図書はどのように扱っているのか。 ・学校に関する理解を進めるため、地域コミュニティに回覧や掲示の依頼をしてみてもいい。 <p>第2回学校運営協議会 令和4年11月24日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年前に比べ、ゴミも少なくなり、授業もICT機器の活用で落ち着いていた。 ・プリント学習が多く、テキストの活用や本を読む習慣の不足が気になった。 ・今後、生徒のグループ討議の時間が増していけばいい。 ・生徒の言葉使いや生徒のモデルとなるべき先生の服装など、少し気になった。 ・地域活動に関わっていくことや社会参画を意識できるのは良いことだ。 <p>第3回学校運営協議会 令和5年2月24日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断で、人権の大切さや社会のルールに関する項目の減少が気になる。 ・ICTの活用は、卒業後の必要度合いも含めて、さらなる充実を図ってほしい。 ・探究活動等を通して、多様な他者を交流し先生も生徒もお互いに成長してほしい。 ・高校生が地域を考えてくれることは良いことだから、今後も継続してほしい。 ・小さな取組みを積み重ねて、アットホームな雰囲気を前面に押し出していく。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
確かな学力の育成	(1) 学びの充実 ア 授業研究・研修の充実	(1) ア ・他校視察や授業公開を行い、「主体的で対話的な深い学び」や観点別評価の授業実践を図る。	(1) ア ・授業見学の機会を3回設け、8割の教員の参加、平均7時間をめざす。[2回 25名 平均4時間] ・他校への授業見学者のべ20名をめざす。 ・授業アンケートの評価に占める肯定的回答86%以上。[85%] ・生徒の学校教育自己診断で「授業はわかりやすい」82%以上。[80%] ・観点別評価等の授業改善をテーマに、学期に2回ずつ、情報共有の機会をもつ。[年3回]	(1) ア ・授業見学の機会を2回設定したが、参加教員は2割、平均2時間程度。(△) ・他校の授業見学実践者は3名のみ。(△) ・肯定的な回答82%で3%の減少。(△) ・生徒の学校教育自己診断で「授業はわかりやすい」82%で、2%の増加。(○) ・1・2学期に3回実施、年度末に最後の1回を予定。(○)
	イ ICT機器の活用とオンライン授業	イ ・ICT機器の活用した授業の充実を図ると共にオンライン授業の実践も継続する。	イ ・1人1台端末等活用した授業実践の情報を共有する機会を、年2回もつ。 ・オンラインにおける授業実践を共有する機会を、年2回もつ。	イ ・授業での活用に個人差が大きく、年度末の総括で共有は不十分であった。(△) ・休校になることも減り、オンラインでの授業実践がほとんどされなかった。(△)
	ウ 授業に取り組む姿勢の育成	ウ ・授業に取り組む姿勢を育成するとともに、予習・復習など家庭学習の習慣づけを図る。	ウ ・生徒の学校教育自己診断で「家庭での学習時間1時間以上」25%以上。[21%] ・授業のUD化やグループワークの手法の共有を意識した意見交換の機会を、年2回設定する。 ・教科ごとに3年間を見通した学びのロードマップを策定し、評価も併せて1年次実践する。	ウ ・生徒の学校教育自己診断で「家庭での学習時間1時間以上」26%で、5%の増加。(◎) ・授業のUDもイメージできず、グループワークの手法共有の機会も設定できなかった。(△) ・教科ごとにロードマップは策定したが、教科内でも実践の共有には至っていない。(△)
	(2) 確かな学力の育成 ア 教育実践の充実	(2) ア ・「総合的な探究の時間」を柱とした教育実践の充実。	(2) ア ・3年間を見通した「総合的な探究の時間」を実践し、情報共有と研修の機会を年2回もつ。 ・他教科と連携する取組みを、各自1案提案し、教科で1案を実践する。	(2) ア ・学年ごとに3か年計画での実践はできているが、年度末に共有の機会をもつ予定。(○) ・他教科と連携した取組みのイメージはもてないままであった。(△)
イ 検定試験の実施	イ ・基礎学力調査や各種検定を学習の具体的な目標として活用する。	イ ・各種検定の受験者数と合格率の増加。 [漢検 232名 22%]	イ ・1年で漢検、2年で英検の全員受験はできた。 [漢検:210名 19%、英検:208名 17%] (○)	
進路実現の支援	(1) 進路指導体制の確立と進路実績の向上 ア 進路指導体制の確立	(1) ア ・3年間を見通した進路指導計画を策定すると共に、「総合的な探究の時間」やLHRで、キャリア学習を実践する。 ・進学講習を計画的に実施し、学習意欲の活性化につなげる。	(1) ア ・「総合的な探究の時間」等でキャリア教育を柱とした実践を、1・2年生共々15時間実施。 [1年・7時間、2年・9時間] ・生徒の学校教育自己診断で「将来の進路や生き方について考える機会がある」86%以上。[84%] ・夏季短期講習の参加率8割、通年講習参加率5割をめざす。[夏季8割程度、通年4割未満]	(1) ア ・キャリア教育をテーマとした時間設定は、1年8時間、2年8時間で終えた。(△) ・生徒の学校教育自己診断で「将来の進路や生き方について考える機会がある」85%。(○) ・夏季講習参加率6割、通年での参加率4割。(△)
	イ 進路実現率の向上	イ ・自習室を活用するとともに、基礎学力調査等の結果を活用し、個人懇談等の充実を図る。 ・国公立や関西8私大現役合格 ・多様な進路希望の実現	イ ・生徒の学校教育自己診断で「自分なりに目標をもって授業に臨んでいる」72%以上。[67%] ・自習室の活用活性化を検討し実践する。 ・国公立や難関中堅8大学へ20名合格。[18名] ・第一希望への合格率70%以上。[65%] ・就職内定率95%以上 [100%]	イ ・生徒の学校教育自己診断で「目標をもって授業に臨んでいる」69%で2%の増加。(○) ・利用者はいるが、組織化したものではない。(△) ・4名合格。(△) ・大学合格率45%、第一希望進学70%。(○) ・就職内定率100%。(○)
生徒の活動の活性化及び規律・規範の確立と働き方改革	(1) 成功体験による自己肯定感の育成と働き方改革 ア 生徒の活動拡充	(1) ア ・1年生1学期中の全員入部制度により、部活動への参加を勧める。 ・部活動の成果に対する支援、校内披露、対外広報に努める。 ・体育祭、文化祭等の生徒会行事への積極的な参加を促進する。 ・学校部活動方針(休養日等)の順守及び全校一斉退庁日の順守を推進する。	(1) ・体験入部を継続し部加入率62%以上。[59%] ・生徒向学校教育自己診断で「部活動は楽しい」75%以上。[74%] ・ホームページの部活動ニュースの更新35回以上。[14回] ・生徒の学校教育自己診断で「学校行事満足度」85%以上。[84%] ・節目ごとに重点化した清掃活動を行う。 ・時間外勤務の全教員の平均が27h未満。 [27h38m]	(1) ・入部率64%。(○) ・生徒向学校教育自己診断で「部活動は楽しい」69%で5%の減少。(△) ・部活動ニュースの更新30回。(○) ・生徒の学校教育自己診断で「学校行事満足度」84%。(○) ・清掃の達成度合いの温度差が大きい。(△) ・時間外平均32h。(△)
	(2) 基本的生活習慣の確立と課題を抱えた生徒の支援体制強化 ア 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成	(2) ア ・基本的生活習慣の基礎として、遅刻指導に引き続き取り組む。 ・生徒指導方針を生徒に明示し、全教職員で指導にあたり、規範意識を醸成する。	(2) ア ・遅刻数年間1600件以下。[1443件] ・自転車マナー苦情15件以下。[13件] ・身だしなみ指導に積極的に取り組む。 ・生徒の学校教育自己診断で「本校の指導は納得できる」60%以上。[57%]	(2) ア ・遅刻数1816件。(△) ・自転車マナー苦情20件。(△) ・生徒会と服装指導のアウトラインで合意。(○) ・生徒の学校教育自己診断で「本校の指導は納得できる」52%で5%の減少。(△)
	イ 関係機関との連携と相談・支援体制の充実	イ ・様々な困難を抱える生徒等への対応は、保護者の理解を得ながら、関係教員が連携を密にして進める。 ・SCやSSW、外部専門機関との連携も積極的に進め、「チーム学校」として対応する。	イ ・多様な生徒のケース会議を重ね、チームで対応した事例を、学期に1回、共有する。[年1回] ・合理的配慮の研修を1回実施する。 ・SNS等におけるトラブル防止に向け、関係部署で定期的に情報共有を図る。 ・生徒の学校教育自己診断で「担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる」65%以上。[62%]	イ ・ケース会議の情報共有はできたが、学校全体での共有は2回のみ。(△) ・実施できなかった。(△) ・学年内での情報共有はできたが、学校全体を見わたし部署間の情報共有は弱い。(△) ・生徒の学校教育自己診断で「担任以外にも、相談できる先生がいる」64%で2%の増加。(○)
ウ 安全・安心な教育環境の構築	ウ ・LHR、特別活動を通して、お互いを認めあい、支え合う人間関係づくりを進める。	ウ ・生徒の学校教育自己診断で「学校で、人権の大切さについて学ぶ機会が多い」78%以上。[76%] ・府立人研のアンケート分析を継続する。	ウ ・生徒の学校教育自己診断で「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」69%で7%の減少。(△) ・年度末に集約予定。(△)	
地域連携の推進	(1) 積極的な情報発信と地域の取組みへの参加・貢献 ア 情報発信の充実 イ 保護者との連携強化	(1) ア ・ホームページ、学校説明会や中学校訪問等を通じて積極的な広報活動・情報発信を行う。 イ ・ホームページやメールマガジン等の充実。	(1) ア ・ブログの発信回数、180回以上。[110回] ・学校説明会を6回開催。[6回] ・中学校や塾等の訪問180校以上。[150校] イ ・ホームページの階層を整理する。 ・保護者の学校教育自己診断で「本校のホームページを見ることがある」87%以上。[85%]	(1) ア ・ブログの発信85回。(△) ・学校説明会5回、オープンスクール1回。(○) ・中学校145校、塾55校。(○) イ ・階層の整理には至らず。(△) ・保護者の学校教育自己診断で「本校のホームページを見ることがある」80%で5%の減少。(△)
	ウ 地域連携の推進	ウ ・生徒会・部活動による地域行事への参加など地域への貢献を一層進める。	ウ ・生徒会・部活動等による地域行事への参加20回以上、参加数のべ200人以上。[2回、20名] ・生徒の学校教育自己診断で「教育活動を通じて地域の人々と関わる機会がある」55%以上。[50%]	ウ ・個人や部活動等で、地域行事への参加8回、60人(△) ・生徒の学校教育自己診断で「教育活動を通じて地域の人々と関わる機会がある」52%で2%の増加。(○)